

ニューガラスフォーラム通常総会記念講演傍聴記 ネットビジネス革命

日本電気硝子

川地 伸治

Revolution by net business

Shinji Kawachi

Nippon Electric Glass Co., Ltd.

6月2日、総会記念講演が前川徹氏（早稲田大学国際情報通信研究センター客員教授）により虎ノ門パストラルで90分にわたって行われた。ニューガラスフォーラムでは、国家プロジェクトとして「テラナノガラスフォトニクス材料」など光エレクトロニクス用新規材料の開発を提案しているの、これらの技術が実現したときの社会を先取りして話してもらおうという上杉専務の発案で前川先生を講師にお招きすることにした。同氏は、つぎで紹介するような経歴の持ち主で、この課題を論ずる適任者であると言えよう。

- 1992年、通産省・機械情報産業局・情報政策企画室を担当。仕事の上でインターネットを使い始める。当時は電子メール、FTP、GOPHERの時代で、初期ブラウザの「モザイク」もまだ出現していない。しかしその便利さに感銘をうける。
- 1994年、インターネット発祥の地であるニューヨークに転勤。このときインターネットに関するレポートを毎月2回、三年間電子メールで発信。出版社の目にとまって、これをまとめて出版。

- 1999年、早稲田大学で研究。ただし、身分は現役の官僚で、現在休職扱いとの由。

演者の経験が示すようにインターネットが普及し始めたのは、ここ7～8年ほど前からである。統計の取り方によっていろいろ違いはあるが、全世界のインターネットの接続ホスト数で見ると、この10年間毎年1.8倍ほどの伸び率で成長している。また、昨年（1999年）の統計で、日米でのインターネットの家庭への普及率は、それぞれ40%と11%となっている。

インターネットの普及につれてEC（Electronic Commerce 電子商取引）が盛んになることは当然予想されている。その中で、大きな影響を与えそうな現象は、ECにおける仲介業者排除（Disintermediation）である。極端なケースではあるが、David Bowie（若い知識人に非常に人気のある有名なポップス音楽家）の実例で申し上げよう。

かれは、1996年9月、自分の新曲をデジタル音楽のまま自分のウェブにのせた。ファンは、自分でその曲をダウンロードすれば、そのまま新曲を聞いたのである。今日では当然かもしれないが、当時は画期的なことであった。な

ぜんなら、それまではレコード会社がCDやテープに録音し、それを卸売業者におろし、それをまた小売業者が消費者に販売するのが当然のルートであったからである。これが典型的な中抜き（仲介業者排除）の例である。

音楽のようなデジタルコンテンツ以外にも、仲介業者が排除される例がある。米国で最大のパソコンメーカーであるDELL Computerは、インターネット上で毎日約40億円（本年1月のデータ）を顧客に直接販売している（ダイレクトモデル）。

一方ダイレクトモデルの適用が困難な商品には、インターネット上での仲介業者が現れている。Amazon.comは、インターネットを利用した本の取次販売業で、配送センターを各所において利用者にすみやかに届ける仕組み（倉庫モデル）を構築している。食料品雑貨を取次販売している米国のPeopod社も倉庫モデルを最終的に取り入れた。ネット上で食品雑貨を購入している世帯は、1997年で20万世帯であるが、2007年には2000万世帯が利用するであろうと予想されている。インターネットを利用したいずれの会社も、受注・配送・決済という基本機能にとどまることなく、インターネットを通して集めた消費者情報を活用してユニークなサービスを提供するような仕掛けを構築している。

以上見たように仲介業者がすべてECによって駆逐されてしまうかという点、決してそうではない。ただ、従来からの中間業者もすべてが駆逐されてしまうわけではなく、別の形態をとって生き延びる例もある。それは、情報仲介業者（Intermediaries）とも呼べる形態である。

自動車情報を仲介するAutobyte.com、絵

画、アンティークを含めてあらゆる物（ソ連の潜水艦の例もあった）のオークションの場を提供するeBayなどの例がある。また、情報をマッチングさせる情報仲介分野では、求人・求職情報専門のいくつかのサイトがある。

チケット（興行、旅行、航空券など）の本質は情報そのものであり、インターネットで販売するには非常に適した商品である。チケットレズの仕組みもさまざまに開発が競われている。

90年代半ばには、情報提供サービスはいずれマイクロペイメント（ネット上での小口決済）を利用してほとんどが有料になるのではと思われていたが、現在ほとんどのものは無料である。こうした情報提供サービスを支えているのがインターネット広告で、この広告市場も急速に拡大している。インターネット放送も音声はすでに実現されているが、動画も近い将来送れるようになるであろう。

以上米国の事情を中心に話されたが、日本のインターネットの将来を考えたときに、月額5000円以下の定額接続、1-10 Mbps程度の高速接続、24時間365日の常時接続が実現することが望まれる、とされた。「我が家ではややスピードは遅いが、常時接続をすでに実現しており、生活様式が確実に変わった」という話であった。

講演終了後、懇親会に移ったが、横川通産省生活産業局長は、挨拶の中で「いま総会シーズンでいろいろな所の講演題目を見るが、本日のテーマは当フォーラムらしく知性のおふれる演題である」とコメントされた。

また、岸田新会長（ニューガラスフォーラム）が、「本日は最初から最後まで、居眠りする暇がないくらい面白かった」と挨拶され、一同同感の意を込めながら爆笑した。